

あれから1週間  
マッサージは自分でするようになって  
我慢をしていたが



何気ない動作で  
へんな気持ちになり  
部屋にこもることが多くなっていた



『ア○チラ、最近調子悪そうだけど大丈夫か?』



『え、あ、ああうん!!  
大丈夫だよ!  
ちよっと食欲ないかなって』

『そ、そうか  
あんまり無理するなよ』



『ちよっとア○チラちゃん!?  
大丈夫ですか!  
だれかっ!!』

うっ...

うっ...

ガタッ

『ダメだ……体調がどんどん悪くなってる  
マツサージ、行かなきゃ……  
でもお金……』



『ごめんなさい♡ごめんなさい♡  
マッサービっ♡♡あのっ♡  
そのっ♡♡たりなっ♡♡♡』

『あらら、こんなになっって  
お金は持ってきたかな？』

『うんっ♡うんっ♡♡♡  
だんちよのっ♡♡  
だけどっ♡おかねっ♡あさっ♡♡』

『わるい子だね  
たっぷりかわいがっってあげるから  
おはいいり』



『おねがいしましゅ♡  
おねがいしましゅ♡  
おくう♡おしまれ♡  
マササーズン♡』



ニトニト

ニトニト

ニトニト



ニトニト



ニトニト

...

...

...



ニトニト

ニトニト





およそ100万あまりを支払い  
都合のいいオナホールとなった  
ア○チラ



一方その頃船では  
消えた彼女の  
捜索がはじまっていた



その足取りは  
つかめないまま  
数ヶ月が過ぎた



アッアッアッ  
アッアッアッ  
アッアッアッ

ぽくぽく  
ぽくぽく

ガクガク

ガク

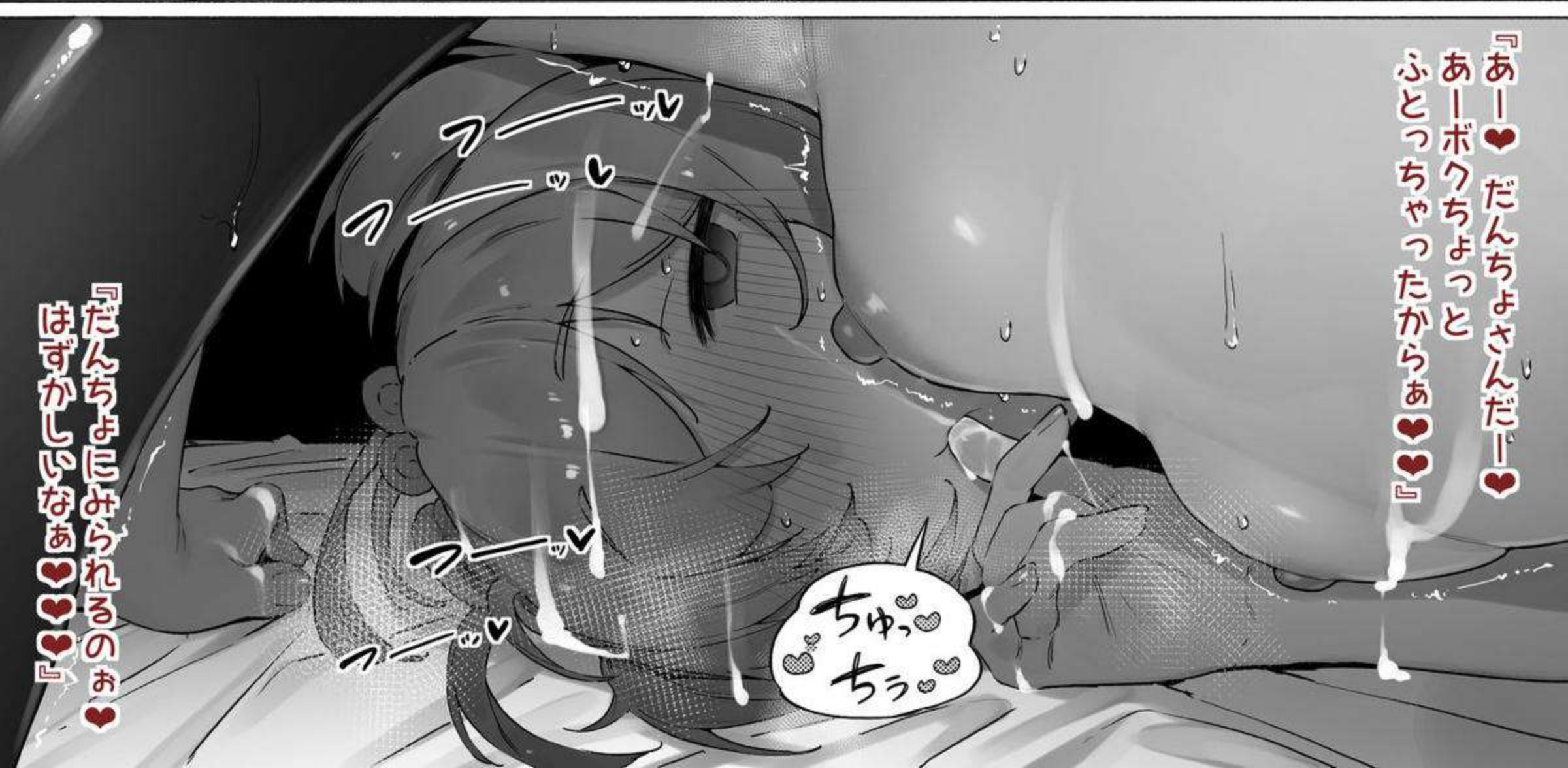
ハッハッハッ  
ハッハッハッ  
ハッハッハッ

ガクガクガク  
ガクガクガク  
ガクガクガク

ガクガクガク  
ガクガクガク  
ガクガクガク

ちゅ、ちゅ

ぽくぽく



『あー♥だんちよさんだー♥  
あーボクちよつと  
ふとっちやっただからあ♥♥♥』

ちゅ、ちゅ

『だんちよにみられるのあ♥  
はずかしいなあ♥♥♥』









